

第2四半期決算の概要 ～投資銀行業務は過去最高益を達成～

企業向けのエクイティファイナンスの引受け業務が拡大し、成長支援や事業再生に向けた資本政策支援でも積極的な取組みを展開し、投資に対するキャピタルゲインが大幅に増加

I. 2Q のサマリー - 投資回収が進捗し大幅増収増益を達成

・売上高(営業収益)	<u>51 億 52 百万円</u>
・売上総利益(キャピタルゲイン)	<u>19 億 14 百万円</u>
・純利益	<u>14 億 2 百万円</u>

II. 2014 年中間業績ハイライト - 各指標とも大幅伸長(前期比)



III. 指数／他社比較 - 圧倒的なパフォーマンス

□マーケット指数との比較(2014 年上半期)※当社調べ

	株価上昇率
当社投資先	270.2%
日経平均	10.1%
マザーズ	28.9%
JASDAQ	17.4%

マザーズ
指数の
9.3 倍

※Oak キャピタル→投資先 11 社平均

□同業他社との比較(2014 年上半期)※当社調べ

	自己資本利益率(ROE)
Oakキャピタル	26.6%
証券大手5社	4.6%
証券大手中堅15社	4.9%

同業他社
15 社平均の
5.4 倍

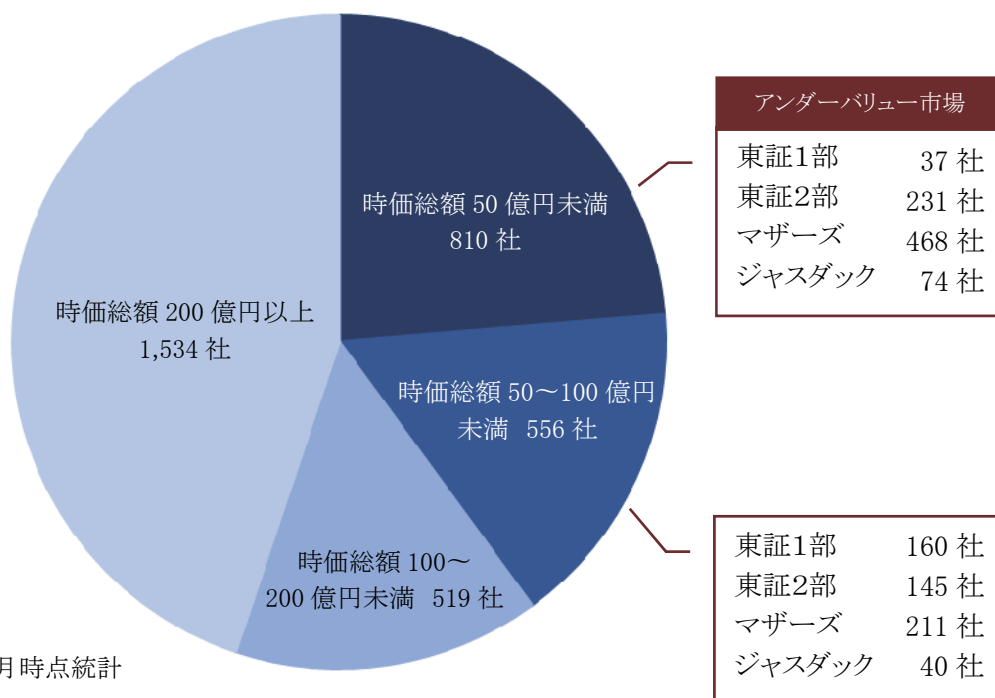
	一人当たり純利益
Oakキャピタル	63,727千円
証券大手5社	4,015千円
証券大手中堅15社	7,719千円

同業他社
15 社平均の
8.2 倍

IV. 投資銀行業務の環境は好機市場である

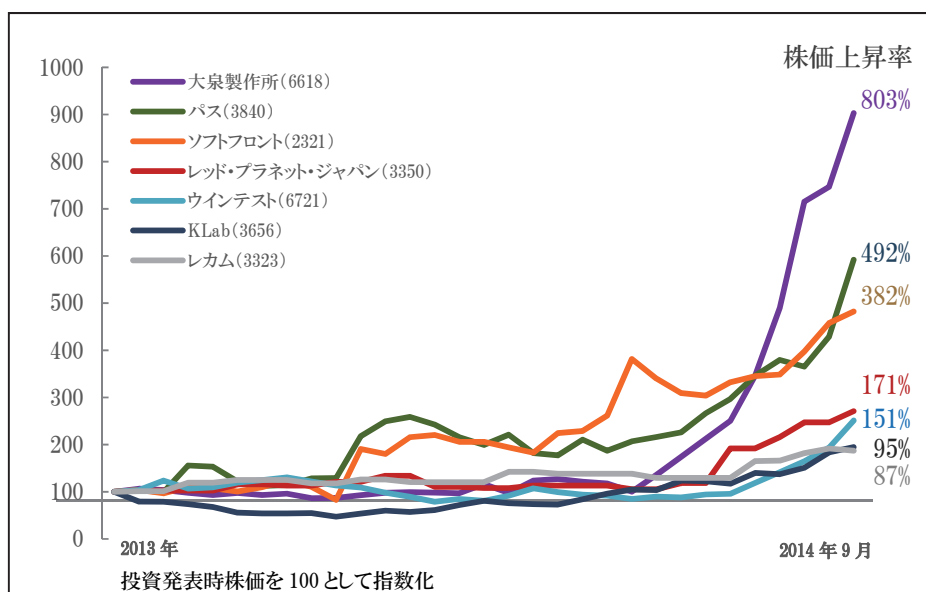
- i. 国内経済の復調から新興市場企業を中心に、引き続き資金調達が活発
- ii. 全上場企業数 3,554 社の内、時価総額 100 億円以下の低位株企業数は 1,366 社
 - ・東証1部 197 社 (10.7%)
 - ・東証2部 376 社 (69.5%)
 - ・マザーズ 114 社 (58.5%)
 - ・ジャスダック 679 社 (79.6%)
- iii. Oak キャピタルの再生支援市場には成長可能な企業が多く存在
- iv. 再生銘柄の復活に対する投資家の期待度は高い

□全上場企業数 3,554 社



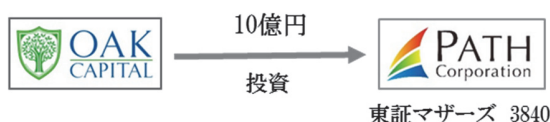
V. 投資銀行業務の成果と期待

- i. 新興市場企業(マザーズ・ジャスダック)を中心に、支援依頼が増加
- ii. 今期より大型のエクイティファイナンス引受を実施
 - ・1社あたり5～20億円の引受
- iii. 2014年4月～9月の投資先企業のパフォーマンス
 - ・投資先株価平均上昇率 270%
 - ・上半期でキャピタルゲイン実績は 19 億円
- iv. Oak キャピタル投資銀行業務に対する投資家からの期待度は高い
 - ・投資後の投資先企業の株価は、再生期待に反応



VI. 投資銀行業務の企業再生投資における実績例

2014年企業再生投資を目的に株式の51%を取得



Oakキャピタルによる企業再生の実施

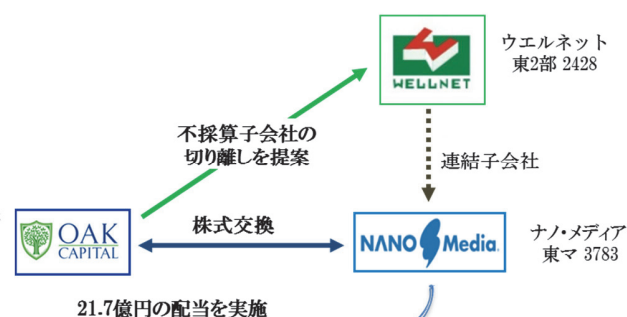
1. 経営陣の一新
2. 財務体質の強化
3. 事業のイノベーション
4. 新規事業の展開



2013年全上場会社中 株価値上がり率 第4位



企業再生を目的とした買収

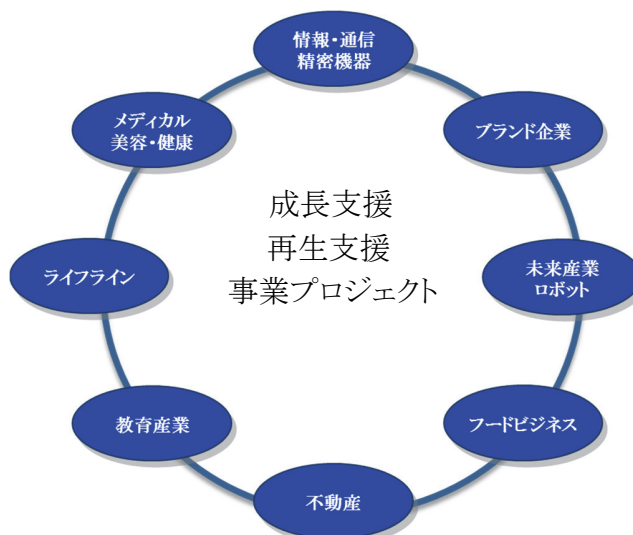


VII. 今後の投資先業種の選定と投資銀行業務の重要性

日本経済再生のカギとなる企業に向けた支援は重要性が増す
・時代を映した成長分野・業種を選定

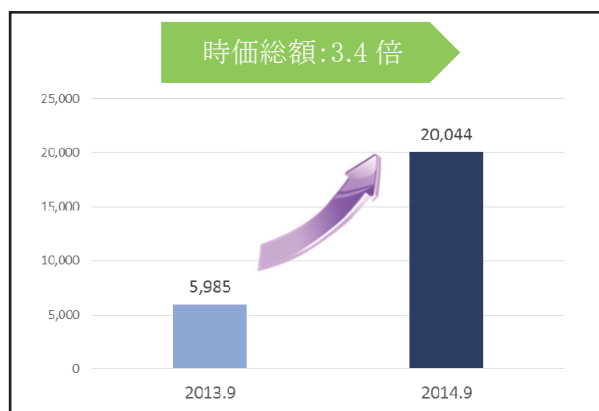
～Keyword～

- 高齢化社会
- 健康・アンチエイジング
- 国家成長戦略
- 2020年東京五輪
- 女性消費
- ICT
- 豊かで実りある生活



VIII. 株式市場での評価 - 株価と出来高の推移

Oak キャピタル株価



出来高・売買代金は大幅増加

- ・2014 年 4 月～10 月 出来高 4 億 2,000 万株 (前期比 1.75 倍)
売買代金 1,183 億円 (前期比 3.5 倍)

IX. 当社の成長戦略と役割

i. 投資銀行業務

- ・純投資部門は積極的にエクイティファイナンスの引受による支援投資を実施
- ・再生投資部門は企業再生投資件数を拡大する
- ・投資先のバリューアップを支援する

ii. 投資銀行業務の重要ポイント

株式市場が良好時の投資戦略と役割 → 成長支援投資に重点投資

株式市場が低迷時の投資戦略と役割 → 再生支援投資に重点投資

ii. 2015 年に向けて投資銀行業務 3 部門の総合力を強化

- ・エクイティファイナンス引受部門
- ・企業再生投資部門
- ・事業投資部門 (事業プロジェクト投資等)

